

請願第3号

「薬師池西公園整備基本計画の基本コンセプト」を堅持することを求める請願

請願要旨

「町田市緑の基本計画 2020」の前文で、「近年、緑への関心はますます高まり、生物多様性の保全、レクリエーションの場の提供、景観の保全等、町田市の緑についてもその多様な機能の発揮が求められています。」と石阪市長が寄稿していますが、薬師池西公園はこの考え方を実現するにふさわしい場所であると考えられます。

薬師池公園を中心とするこの地域には、すでに薬師池公園・りす園・ぼたん園・ふるさと農具館等の公園や施設が多数存在しており、西公園予定地は、公園や施設をつなぐ部分に位置し、ハイキングコースとして多くの人々に利用されています。それはこの西公園予定地が「人工的な」施設の景観に囲まれる中であって、「自然の」景観が残されている場所であることで、多くのハイカーに親しまれている要因になっております。まさにレクリエーションの場の提供になっているのです。

西公園予定地は、昔ながらの農を営む谷戸山の風景がそのまま残っている貴重な地域です。そして鎌倉古道史跡など、貴重な歴史資源も近隣で保全されており、里山文化の継承にふさわしい佇まいを残しています。豊かな自然環境を有する首都圏有数の商業・住宅都市として発展してきた町田市にとって、昔ながらの多摩丘陵を代表するこの谷戸山の風景を残すことは、人と自然とが共生する環境都市を維持するために重要な課題です。また、自然環境調査の結果、恩田川の源流であるこの地域には、かつて多摩丘陵で多く見られたが今は姿を消しつつある動植物・昆虫の大切な生育地であることがわかりました。生物多様性の観点からも重要拠点です。

近年、これらの自然環境、歴史文化資源、里山景観の保全、生物多様性の保持などは重要な国家的課題になっており、また、これらが保持されていることは重要な地域資産であるとの認識が広まっています。今回の西公園整備は、市民にとってのこの資産を保全するための大切な事業だと考えています。そして1988年に「保全の森」指定、2008年に「風致公園」に都市計画決定と、着々とその裏付けが固まってきており、今後の展開を楽しみにしております。

しかし、公園緑地課が平成22年3月に公表した基本計画の内容は、一部懸念される内容が含まれておりました。「谷戸山の自然や景観と、そこから育まれる地域文化を、公正に継承することが出来る公園づくり」を基本コンセプトとしたことは大いに賛同することなのですが、年間利用者目標数を「10万人」に設定し、観光拠点と便益施設の整備を図る計画の部分は、このコンセプトから逸脱しているのではないかと考えています。現存する雑木林を整備し、「導入施設」として景観作物・植物の植栽計画を立て、花畑や花壇、アスレチック遊具、景観野草園など、おおよそ基本コンセプトとずれ、集客施設としての内容になっていたからです。

作家の野坂昭如氏は、連載記事「七転び八起き」(平成25年2月16日付毎日新聞)の中で「戦後の日本は全国各地で開発がいわれ、自然破壊が進んだ。(中略)これではいけないと、例えば失われた自然の回復をめざし手を入れる。原生林の跡に芝生を植え、花壇をつくる。都市にはそんな公園が増えた。見た目は綺麗でも、元々あった植物が刈り取られ、そこに生育していた生物は行き場を失い、滅びる。人口の渚も登場。そこで子供を遊ばせて自然に触れさせているつもりになっていても、本来の姿とはまた別物なのだ。」と書いておられますが、まさしく今回の整備の内容は、見た目だけの自然と景観の整備が図られようとしています。

しかし私たちが望むのは、現状の保全を軸に、施設としては若干の道やトイレなどの整備程度のものであり、当該地を活用した、人工的な植栽を中心とした集客施設の整備ではありません。平成23年に、公園予定地を通るハイカーに対してアンケートを行ったところ、回収264件のうち65%の方々から「何もする必要はなく現状のままにする」との回答を得ました。さらに「道を整備したりトイレを設置したりする程度でなるべく自然を残した公園」の34%を合わせると、実に99%の方々、この谷戸山の自然と農の風景を楽しみに来ていて、ここを人工の公園にしてほしくないという意向でした。基本コンセプト「谷戸山の自然や景観と、そこから育まれる地域文化を、公正に継承することが出来る公園づくり」まさにそのままの整備方針を求めています。

周辺を観光拠点として整備する構想のようですが、当該地は「風致公園」としての位置づけなのでこの場所だけ

は、自然環境、生物多様性、里山文化を尊重して保全していただきたいと考えています。この自然は、一度人工の花壇などの植栽に変えてしまうと、復活することは困難なものです。環境省においても「自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し、学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかた（環境省エコツーリズム推進会議）」として推進している政策もあり、町田市が、旧来の集客型観光施設の整備にこだわらず、このような今日的な形で積極的に施策を展開することを望んでおります。

また、あわせて「薬師池西公園を考える会」は、市と「緑地保全の森の管理協定」を締結し、平成 21 年 4 月より公園予定地の緑地の維持管理を行ってきました。「町田市緑の基本計画 2020」の「緑のしくみづくり」に書かれているように、市民と協働して緑地の保全・活用計画を策定していく姿勢を今後も続けてください。

請願項目

- 1、薬師池西公園の整備計画を、平成 22 年 3 月に公表された「薬師池西公園整備基本計画の基本コンセプト」である「谷戸山の自然や景観と、そこから育まれる地域文化を、公正に継承することが出来る公園づくり」を堅持した内容にしてください。
- 2、今後も市民との協働で緑地の保全を行い、市民と共に、市民のための公園づくりを行ってください。